臨床実習に臨む皆さん、

いよいよ臨床実習が始まります。

私は人と話すのが苦手とか、チームで動くことが不得意などと言っている場合ではなく、自身に挑戦し、学ぶ必要があります。学生ではありませんが、C B T、O S C Eに合格したあなた方は、直接患者さんに接し、患者さんに触れ、検査を行い、診断し、治療行為を行う事が法的に認められています。医療者として扱われるのです。しかもその学びの場は、大学病院だけではなく、市中の病院や診療所に広がります。初めての臨床実習は、期待と不安が入り混じるものですが、皆さんの情熱と知識が患者さんのために役立つ瞬間がたくさん待っています。患者さんとのコミュニケーションを大切にし、先輩医師や看護師、薬剤師や放射線技師、理学・作業療法士から多くを学び取ってください。積極的に質問し、経験を積むことが大切です。

学生に何を教員に求めているかを聞くと、レクチャーをしてくれる、理解しやすくまとめてくれる、視聴するだけで理解できるオンデマンド教材が欲しいなどの言葉をよく聞きます。これまでは座学中心でしたから、これらも悪くは

ないですが、これからは違います。自分で情報を集める事、内容をまとめ、実践できるように努力することが求められます。鳥の雛のように、口を開けて、次は誰が知識を与えてくれるかな、なんて考えているようではだめです。いくつかのポイントがあります。

まずは診療参加型臨床実習として、主治医チームの一員としての診療行為を行います。患者さんの気持ちや状況を理解し、共感を持って接することが大切です。患者さんに寄り添う姿勢を忘れないください。ベッドサイドでの指導を受ける際には、CG-EPPOC (Clinical Competency Evaluation Point of Care) を活用する診療科もあります。MiniCEXや360°評価が可能です。

Evidence-Based Medicine (EBM) の実践を目指し、UpToDateなどの最新の医療情報を活用してください。PCの自動翻訳機能を設定すれば、すべて日本語で月単位に更新される最新の医療情報が得られます。

症例や学びをe-portfolioに登録・記載し、自身の成長を記録しましょう。これにより、振り返りや自己評価がしやすくなります。

自身の健康を維持し、心身ともにベストな状態で実習に臨むことが重要です。休息をしっかりと取り、ストレスを適切に管理しましょう。

試験などもなく、時間もとれると思います。知識を重ねていきながら、是非多くの本を読んで、人としての厚みを増すように時間を使ってください。

何といっても、皆さんは2年後には、一緒に働く同僚になるのですから、君たちの成長を心から期待し、応援しています。自分に限界を作らず、No Limitで頑張ってください！

令和6年12月20日

医学部長 大脇哲洋